

足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されていない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	高次脳機能障害の中の着衣障害（服をうまく着れない）のメカニズムを明らかにする後ろ向き研究
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	【目的】頭部外傷や脳卒中や脳炎の後遺症で出現する高次脳機能障害には、失語症や左半側空間無視や注意障害や意欲の低下などのさまざまな症状がありますが、ときに「服をうまく着れない」という着衣障害に悩まされている患者様がいらっしゃいます。着衣障害に罹患すると日常生活上で介助が必要になるため、そのメカニズムを明らかにして、それをリハビリテーションや日常生活に応用することは重要だと考えられます。しかし、今まで着衣障害のメカニズムは明らかではありません。本研究の目的は、着衣障害を呈した患者様に特徴的な認知機能の所見を取り上げて、そのメカニズムを探ることです。
調査データ該当期間	2015年1月から2021年5月まで診療情報を調査対象とする
研究の方法	<p>★対象となる患者様</p> <p>対象は、2015年1月から2021年5月に当院神経精神科の高次脳機能外来を受診した中で、着衣障害を呈した患者様です。着衣障害は右頭頂葉の損傷された方に多かったことから、対照とさせていただく患者様は、着衣障害を呈さなかった右頭頂葉損傷を持つ患者様（左半側空間無視を呈している患者様に相当します）です。</p> <p>★利用する情報</p> <p>診療録に記載されているデータのみを利用します。診療録に記載されている年齢、性別、疾患名、発症からの経過年数に加えて、各種の認知機能を測定する知能検査（ウェクスラー成人知能検査法）、エピソード記憶検査（リバーミード行動記憶検査）、短期記憶検査（数唱、タッピングスパン）、視空間機能検査（Trail Making Test、視空間イメージ課題）の課題の成績を利用します。</p>
情報の他の研究機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。
本研究の資金、利益相反	ありません
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆